

元プロ野球選手 24 名と野球教室の受講生で記念撮影

加西市制 50 周年記念事業として 11 月 19 日、アラジンスタジアムで「ドリーム・ベースボール」を開催し、プロ野球で活躍した選手24 名が加西市を訪れました。

午前中の野球教室では小・中学生約350人が参加。巨人のエースとして活躍した桑田真澄さんは、「体を開かず、できる限り打者に背中を向けたまま投げれば、打者が球を見にくくなる」などと指導しました。また、国内最多安打記録を持つ張本勲さんは「強く正確に打ち、自分に合ったフォームを身につけること」と身振り手振りで伝授し、熱のこもった指導をしました。



受講生にリリースポイントを教える桑田真澄さん



藤田太陽さんの投げる球を打つ市選抜チームの選手

午後からは、400 勝投手の金田正一さんが監督で率いる「ドリームチーム」と市選抜チーム 24 人が真剣勝負。市選抜チームは、桑田さんら5投手の完封リレーで、惜しくも0対1で敗れました。

元プロ選手の球の速さや変化球のキレを肌で感じた打者は、打席では緊張したが一生の思い出になったと感動していました。

その他にも、金田さんのふれあい講演会(健康福祉まつりと同時開催)やアトラクション(プロに挑戦、ホームラン競争)、サイン入り バット・グローブが当たる抽選会などもありました。

■抽選会の賞品交換について

当日受け取りに来られなかった方のために、サイン入りバット・グローブ・ボールの計 289 点の当選番号を、市ホームページに掲載しています。また、秘書課までお問い合わせください。当選している整理券の半券と交換となります。

引換期間/12月15日(金)までの平日8:30~17:15

引換場所/秘書課(市役所 3 階南側) ☎ 42-8701



野球人生について話す金 田正一さん

霜浦宣也さんと佐伯勝さんがパワーリフティングで全国大会に出場

加西市は 10月 30日、「日本スポーツマスターズ 2017 兵庫大会記念事業 第 22回ジャパンクラシックマスターズパワーリフティング選手権大会」(9月 16・17日)に出場した 2名に、今後の活躍を期待して「文化・スポーツ振興賞賜金」を贈呈しました。

霜浦宣也さん(笹倉町) 佐伯 勝さん(北条町古坂)



左から霜浦さん、西村市長、佐伯 さん

地域の資源である『忠臣蔵』で市の活性化を

問合先/文化・観光・スポーツ課☎42-8756 FW42-8745 kanko@city.kasai.lg.jp

加西市制 50 周年記念事業の一環として 11 月 10・11 日、加西市民会館で「第 29 回忠臣蔵サミット in 加西」を開催し、約 750人の参加がありました。

加西市での開催は、平成 14 年度に続き 2 回目となり、忠臣蔵サミット加盟 33 自治体のうち、16 自治体とオブザーバーとして 2 自治体の参加がありました。



忠臣蔵サミット in 加西

■忠臣蔵特別物産展

参加自治体の特産品を集め、加西市からは「ぶどうようかん」と「加西とまと洋食ソース」が人気で、一関市のごま摺り団子や東京都港区の切腹最中など、売り切れる商品が出て大盛況でした。

■交流会議

事例発表では、「ふるさとの資源を活かした地域創生」をテーマに参加自治体より、忠臣蔵を活かした観光やまちづくりなどの紹介がありました。その後、記念講演として、上方講談師の旭堂南海さんに「潮田又之丞と北条の忠義膏(ちゅうぎこう)」と題した講談をしていただき、巧みな話術に参加者から笑いが起こりました。



多くの人で賑わう物産展



旭堂南海さんの記念講演



左から西村市長、明石赤穂市長、大豊県議会議員、衣笠議長

■歓迎レセプション

加西市出身で若手音楽家の加門隆太朗さんらによるピアノ演奏などで、参加自治体を歓迎。赤穂藩の飛び地の上に建つ青野運動公苑 スポーツホテルで、交流を深めました。

また、来年度開催地である広島県三次市の増田和俊市長が「親善と友好を深めながら、地域の活性化と発展向上のため、今後も相互協力をしていきましょう」と話されました。



忠臣蔵ゆかりの地 視察

東京の泉岳寺、赤穂市の花岳寺と並び赤穂義士ゆかりの三がく寺の一つ久学寺では、住職より赤穂義士との関わりについて説明があり、四十六士の霊牌などを見学。小野寺十内親子の菩提寺である多聞寺なども訪れました。

また、フラワーセンターで、千石唯司さん(別所町)寄贈の古代 中国鏡が展示されている「古代鏡展示館」も見学しました。



住職が赤穂義士との関わりについて説明(久学寺)



今回の忠臣蔵サミットにより、改めて加西市と忠臣蔵との深い繋がりが分かりました。また、赤穂義士に関する新たな資料が市内から見つかるなど、まだまだ忠臣蔵に関する地域資源はたくさん眠っているようです。それを掘り起こし、スポットを当て、市内外に情報発信することにより交流人口を増やし、地域の活性化を図っていきます。